

COC ニュースレター

地域に根ざし、世界を目ざす。—Center of Community—



「知多半島フットケアサポートの会」直伝！予防フットケア実践

本学は、全学的に地域連携教育を推進しており、持続可能な「ふくし社会」を担う「ふくし・マイスター」の養成に取り組んでいます。全学教育センター科目「知多半島のふくし」の中で実施される「COCデイ」は、大学が位置する知多半島の課題解決に取り組むゲスト講師を迎え、この地域の現状や地域に対する理解を深めます。2024年度は、看護学部とともに、「知多半島で、足を『見る』『守る』『強くする』」をテーマに開催し、139名の学生が、知多半島フットケアサポートの会の協力のもと、予防フットケアについて実践を通じて学びました。

■基調講演 知多半島で、足を「見る」「守る」「強くする」

～みんなで足を守る！ 地域住民の疾病・

災害に強い足にするための予防フットケア～

知多半島フットケアサポートの会 2期代表理事 長利 麻衣子 氏

■ワークショップ ～フットケア体験～

シャボンラッピング・保湿・マッサージ / 靴の選び方・履き方

エコノミー症候群についてと予防（体操） /

弾性ストッキングの適切な選択と着用方法

進行 看護学部 白尾 久美子 教授



基調講演では、足は「歩く」「立つ」「走る」「跳ぶ」といった人間にとって重要な機能を持つにもかかわらず、あまり関心が寄せられていない現状が伝えられました。講演では、糖尿病などの病気によって多くの人が足を失うという事実が示される一方で、適切なフットケアの知識と方法を身につけることで、足を保護できることも強調されました。さらに、フットケアは医療現場のみならず、災害時におけるエコノミークラス症候群の予防や心身のケアにも有効であり、医療従事者でなくとも人々の健康を守る上で重要であることが説明されました。後半のワークショップでは、学生がグループに分かれ、4つのフットケアを実践的に学びました。

マチプロ「プランニングコンテスト」を開催

「マチプロ」は、半田市中心市街地の活性化を目的とし、日本福祉大学の学生が地域課題の解決に取り組むプロジェクトです。2024年10月からフィールドワークを実施し、11月にはワークショップで「若者の居場所づくり」「商店街との連携」など3つのテーマを設定し、具体的なプランを検討しました。

2024年12月26日には「プランニングコンテスト」を開催し、6チームがアイデアを発表。審査員や参加者の投票により、上位3チームが選出され、活動資金が提供されました。選ばれたプランには「商店街にブラックボード看板を設置」「若者が集まれるカフェスペース運営」「住民の得意分野を活かすイベント企画」などが含まれています。

今後、受賞チームは地域の事業者や行政と協力しながら、プランを具体化し、中心市街地の活性化を目指します。地域住民の意見も取り入れながら調整し、より効果的なプロジェクトへ発展させます。学生たちはまちづくりの現場で成長し、地域とのつながりを深めていきます。



地域で活躍する「ふくし・マイスター」

日本福祉大学では、平成26年（2014）年度文部科学省「地（知）の拠点整備推進事業」の採択を契機として、知多半島の関係自治体や課題解決に取り組む地域関係者とともに、「持続可能な『ふくし社会』を担う『ふくし・マイスター』の養成」に取り組んでいます。2024年度は701名（前期卒業含む）の卒業生が「ふくし・マイスター」の修了証を授与されました。これまでに5,000名以上の卒業生が「ふくし・マイスター」として、知多半島での学びを活かし、それぞれの地域に貢献・活躍しています。さらに、2024年度からは通信教育部においても、「全国各地に住む学生が、それぞれの住まいや職場で、身近な人々や地域が抱える課題を自分ごととして捉え、『ふくし』の視点から課題解決に取り組むための学びを修了した学生」を「通信版ふくし・マイスター」として認定しています。

卒業までに地域志向科目10科目20単位以上
＋
毎年度リフレクション（ふりかえり）を実施



※取得イメージは、通学課程における「ふくし・マイスター」の説明です。

ふくし・マイスター

「ふくし・マイスター」とは、地域の課題を理解するとともに、生涯を通して地域と関わりながら暮らす市民としての基礎力、地域課題を見据える「ふくし」の視点を身に付け、ボランティア精神とリーダーシップを発揮して「身をもって」地域課題の解決に取り組むことができる人のことです。

ふくしフィールドワーク実践

～知多半島の地域課題を通して多学部で学びあう体験学習の場～

「ふくしフィールドワーク実践」では、フィールドワーク、ワークショップなど実践的な授業手法を中心として地域の様々な取組・課題に触れ主体的に学びます。この科目の特徴は、地域社会での体験学習を重視し、専門の異なる学部の学生がグループで学びあうこと、地域の様々な関係者との出会いの中で多職種や多分野の連携を学ぶことです。「事前学習、フィールドワーク、事後学習」を集中的に展開して学びを深める中で、異なる学部同士の学生が互いの知識を融合させ、課題解決に取り組みました。2024年度は、4つのクラスで開講しました。

子どもと学校クラス（担当教員：鈴木庸裕教授〈教育・心理学部〉、原田康信助教〈社会福祉学部〉）では、半田市立宮池小学校を訪問し、学校における子どもの課題解決に向けた多職種・多分野連携のあり方について学びました。コミュニティスクール推進協議会の実践や、スクールソーシャルワーカーによる事例検討を通じて、連携の具体的な取り組みを理解しました。学生たちはグループディスカッションを行い、複雑化する家庭環境などを背景とした子どもの課題に対応するためには、学校を基盤に教員やスクールソーシャルワーカーなどの専門職、地域の多様な人々が顔の見える関係性を築くことが重要であると考察しました。そして、地域社会の中で子どもを中心としたつながりや、安心して過ごせる居場所づくりの重要性についてまとめ、発表しました。



防災啓発動画プロジェクト in 神戸市

～阪神淡路大震災から30年を期に改めて防災・減災を考える～

2025年1月、阪神淡路大震災から30年が経過した神戸市をフィールドに、全学教育センターでは、独自企画「防災啓発動画プロジェクト」を企画・実施しました。参加した9名の学生は、事前学習では、当時現地で被災した全学教育センター長の野尻紀恵教授の話聞き、現地フィールドワークでは神戸市にある「人と防災センター」での体験学習や、神戸市社会福祉協議会の職員長谷部氏の話などを聞き、学生は大規模災害への備えの大切さを実感しました。そして、ワークショップを通じて、大学生に対して「自助」と「共助」の行動を促す防災啓発動画を制作しました。出来上がった動画は、本学の在学生向けの「減災オリエンテーション」で上映され、学生の防災意識の醸成に活かされました。また、学生は、企業のアドバイスを受けて動画制作をやり遂げる中で伝え手の視点を得る貴重な経験をつむことができたようです。

※本取組は、日本福祉大学後援会の助成を受けて株式会社メディアオーパスプラスの協力のもと実施されました。



地域に根ざし、世界を目指す
「ふくし」の学びを伝えよう！

ふくしAWARDは、「地域に根ざし、世界を目指す『ふくし』の学びを伝えよう！」をテーマに、学生が正課内外の地域活動を通して学んだことや考察したこと、授業の一環や個人の関心により調査したことなどを発表するプレゼンテーションコンテストです。2024年度は、応募38作品の中から、最終審査に残った英語部門4作品、日本語部門4作品のプレゼンテーションがおこなわれ各賞が選定されました。学生が司会進行を行い、緊張感のある中でも全体的に温かみのあるコンペティションとなりました。



「地域連携型研究助成制度」

「地域連携型研究助成制度」は、本学教員と地域の関係者がともに取り組む実践的研究を支援する本学独自の研究制度です。2024年度は、以下4件が採択され取り組まれました。

【2024年度 地域連携型研究助成採択一覧】

- 「半田市上地区の多文化共生の実態調査・学部生の地域活動への参加の意義の検証」
研究代表者：国際学部 准教授 カースティ祖父江
- 「ものづくりとリハビリ活動を通じた複数地域運動によるまちづくりに関する実践的研究」
研究代表者：健康科学部（2025年度より工学部） 准教授 坂口大史
- 「知多半島の工場内ピオトープの将来像への提案
～JFEスチール知多製造所（半田市）を例として～」
研究代表者：健康科学部（2025年度より工学部） 教授 福田秀志
- 「美浜町における子ども食堂の活動が地域住民に及ぼす効果についての研究」
研究代表者 社会福祉学部 教授 野尻紀恵

研究成果報告書については、過去に採択された研究テーマも含め、下記QRコードよりご覧いただけます。



SDGs×地域連携



SDGsとは国連が定めた持続可能な開発のための国際目標であり、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。本学は「ふくしの総合大学」として、人がしあわせに生きられる社会の実現と支援をめざし、65年以上にわたり教育と研究を行っています。

▶ SDGs AICHI EXPO 2024にて国際学部がSDGsの取り組み紹介

2024年10月10日（木）、11日（金）、12日（土）に愛知県国際展示場（愛知県常滑市）にて開催された「SDGs AICHI EXPO 2024」に日本福祉大学のブース出展を行ないました。企業、大学／学校、NPO、自治体がSDGs関連の取り組みを展示するこのイベント。メインステージでは、スペシャルゲストや出展者の講演だけではなく、ファッションショーといった観て楽しむイベントもあり来場者と出展者が一体となって様々な観点からSDGsを考える機会が創出されています。

本学では昨年度に引き続き国際学部が出展しました。SDGsの概念を広げる取り組みとしてカルタとすごろくのゲームを紹介しました。これまでの学習や取材等のゼミ活動を通しより多くの人々が共感できるだけでなく、理解しやすい内容を学生同士で試行錯誤し作り上げました。

身近な出来事からSDGsを考える構成で大人だけではなく、子どもが楽しめるよう細やかな配慮が多くみられる本学学生の温かさに溢れたものとなりました。

▶ 様々な場所での展開

3日間では多くの方にお立ち寄りいただきました。学生の活動の内容を知ってもらうことは学生にとって大きな喜びだけではなく、今後の自信にも繋がった日となりました。

また、学生自身もその他の出展者ブースを見ることができ更なる活動意欲に繋がる日となりました。今回の「SDGs AICHI EXPO 2024」だけではなくその他のイベントや教育機関でも紹介していますのでぜひお見掛けの際はお立ち寄りください。



知多半島で広がる協働による持続可能なまちづくり

美浜町 美浜町・美浜町社会福祉協議会共催事業「みんなの減災カレッジ2024」を実施しました。

毎年、美浜町・美浜町社会福祉協議会では、町内の居住・就労・通学者を対象に、南海トラフ地震などの大規模地震に備え、地域の防災力向上と長期避難生活に伴う地域コミュニティの重要性を再認識することを目的に、「みんなの減災カレッジ2024」を実施しています。今回は「美浜キャンパス安全の日企画」として協力し、11月30日に実施しました。

午前の部では、美浜町職員・家田氏による「要配慮者の防災支援 ～福祉課の視点から見た災害対応の現状と課題～」、および本学・野尻紀恵減災連携・支援機構長による「減災に向けて ～福祉の視点から考える避難生活～」の講話が行われました。

昼食の時間には、町や社会福祉協議会から提供されたアルファ米を水とお湯で調理し、その味の違いを体験だけではなく、社会福祉協議会が提供した非常食の試食も行いました。また、能登半島の復興を願い、美浜町で子ども食堂「ふぁみりー基地」を運営している野尻ゼミの学生たちが、石川名物「めった汁」を炊き出し、参加者の皆さんにふるまい交流の機会にもなりました。

午後の部では、避難生活をリアルに体験するプログラムを実施。実際のテントや簡易ベッドに触れることで、避難生活の具体的なイメージを深めることができました。その後のグループワークでは、今回の学びを振り返り、帰宅後すぐに実践したいと感じた防災への取り組みについて意見を交換。参加者全員で意識を共有しました。

「みんなの減災カレッジ2024」は、防災意識を高める第一歩として大きな意義を持つものとなりました。今後も災害を「他人事」ととらえず、防災備蓄の見直しや地域とのつながりづくりに積極的に取り組んでほしいというメッセージとともに、本企画は締めくくられました。



半田市 半田市共催講座「親子染め物大作戦！～親子で考えるSDGs-廃棄野菜で染め物体験！～」を開講



7月30日（火）半田市上池公民館で、半田市共催による『親子染め物大作戦！～親子で考えるSDGs-廃棄野菜で染め物体験！～』（企画：（株）エヌ・エフ・ユー）講座を開講しました。

この講座ではタイトル通り、廃棄されるはずの玉ねぎの皮を利用して、親子でハンカチの染め物体験を行いました。5組16名の親子が参加され、染め物体験を通してSDGsについて考える貴重な機会となり、持続可能な未来についての意識を深めました。

また講座の途中では、SDGsクイズが行われました。染め物体験やクイズを通して親子の絆を深めるとともに、SDGsについて理解を深める機会となりました。



東海市 東海市「東海市地域大円卓会議」が10年の歴史の幕を閉じました。

「東海市地域大円卓会議」は、2025年3月末をもって閉会しました。想いを持った若者を地域で応援しようと2015年に始まった本会議は、東海市立市民活動センターを中心に星城大学教員、本学教職員、東海市職員や市民の有志の方々も交えて実行委員会を形成し、共同で開催してきました。毎年11月に一般市民に参加を呼び掛け、2024年11月の最後の開催までの10年間に延べ48名の若者が自分の夢を語り、延べ674名が会議に参集して若者の夢の実現に向けて知恵を出し合いました。夢には、自分自身の成長を夢見るものだけでなく、東海市をはじめとした地域の未来を描くものも多くありました。閉会にあたり10年間の足跡をまとめた閉会記念誌を発行しました。

記念誌は、QRコードからご覧いただけます。

